平成 26 年度

「地域の男女共同参画推進活動団体調査」まとめ

山梨県立男女共同参画推進センター

はじめに

私ども山梨県立男女共同参画推進センターでは、県内において女性が積極的に参加して地域の課題解決を図るための実践活動や男女共同参画による自主的な地域づくりを行っている事例に関する調査を行い、その結果を広く県民に提供することにより、地域における男女共同参画を推進することを目的として、今年度５月より、本県において男女共同参画推進活動をはじめ、様々な活動に取り組まれている団体への「地域の男女共同参画推進活動団体調査」を実施してまいりました。

調査実施及び本事例集をまとめるにあたり、市町村担当課をはじめ多くの活動団体の皆様方にご協力いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

皆様方におかれましては本事例集を参考にしていただき、今後の活動の一助となれば幸いです

平成26年11月

山梨県立男女共同参画推進センター

（ぴゅあ総合・峡南・富士）

館長　河野義彦

Ⅰ　調査方法

県内27市町村男女共同参画推進委員会及び、山梨県女性団体連絡協議会に所属する女性団体、NPO等の民間団体を対象にアンケートを郵送し、団体の概要（所属人数及び男女比、構成年齢）や、活動ジャンル及び具体的なこれまでの活動内容、活動目的・経緯、活動を進める上での工夫や成果について、主に自由筆記形式にて調査した。（調査実施期間：平成26年5月～8月末日）

Ⅱ　回答内訳

全回答団体数　　45団体

内、

・自治体及び市町村推進委員会等関連団体　　14団体
・山梨県女性団体連絡協議会所属団体　　13団体
・NPO等民間団体　　18団体

Ⅲ　調査協力団体（敬称略）

自治体及び市町村推進委員会等関連団体（14）	**カテゴリー1.2.3**
都留市	堀内富久
都留市男女共同参画推進委員会	志村邦治
忍野ハーモニープラン推進委員会	天野昇一
甲府市男女共同参画推進委員会大国地区女性部愛育会	山本とし子
甲斐市男女共同参画推進委員会	但田孝子
甲州市男女共同参画推進委員会	佐藤多賀子
身延町男女共同参画審議会	無記名
南部町男女共同参画審議会	佐野勝三
韮崎市男女共同参画推進委員会	浅川節子
市川三郷町男女共同参画推進委員会	市瀬百合子
富士川町男女共同参画準備委員会	樋口高子
中央市男女共同参画推進委員会	鷹野和也
共に生き活き輝け昭和推進委員会	依田茂巳
児童虐待防止セーフティネット甲州	柳場文彦
山梨県女性団体連絡協議会所属団体（13）	**カテゴリー5**
新日本婦人の会山梨県本部	石原靖子
あしたの山梨を創る生活運動協会	飯窪さかえ
山梨県退職現職女性教職員の会	古屋敏子
退職女性教職員の会（茜会）	石井篤子
ガールスカウト第10団	渡辺真由美
山梨県生活学校連絡会	石井直江
山梨県消費生活研究会連絡協議会	今村繁子

南部留地区　女性団体連絡協議会	土屋洋子
国際ソロプチミスト山梨・芙蓉	天野千鶴子
山梨県愛育連合会	鈴木孝子
山梨県女性団体連絡協議会	牛奥久代
21 世紀やまなし女性会議	飯窪さかえ
甲斐市女性団体連絡会	田中陽子
NPO 等民間団体　（18）	**カテゴリー4.6**
つみかごの会	富永元恵
都留市読み聞かせボランティアこぶたの会	小松かおり
グループ Wing やまなし	田中陽子
やまなし女と男のネットワーク	清水絹代
劇団さくらっ子	平井ゆみ
ハッピーキッズ	福井雪恵
こま未来塾	小松繁光
やまなし地域女性史聞き書きプロジェクト	池田政子
女性の人権サポート　くろーばー	森川茂子
こぐまクラブ	赤田早苗
5 ひきのこぶた	近藤あつ子
ブラウンライス・La Flor Bailar	米澤はるか
山梨セラピスト協会	杉本かおる
家庭教育支援チーム　ラ・ペジブル	藤森晴江
畑 CAFÉ	奈良知子
都留水みず探検隊	賀川一枝
国際ボランティア SAME インターナショナル	有泉俊子
特定非営利法人減災ネットやまなし	向山建生

Ⅳ　団体概要

① 活動歴

1 年未満	0
1 年以上～10 年未満	19
10 年以上～30 年未満	16
30 年以上	8
無回答	2

② 会員数

～10 名未満	5
10 名以上～50 名未満	25
50 名以上～100 名未満	2
100 名以上	8

無回答	5

③　年齢層の下限が

20 歳代以下	7
30 歳代以上	8
40 歳代以上	10
50 歳代以上	13
60 歳代以上	3
無回答	4

Ⅴ　活動分野別（重複回答あり）

男女共同参画全般	30	
ワークライフバランス推進啓発	9	
DV 児童虐待防止啓発	11	
男性の家事育児参画	11	
女性の労働差別撤廃	6	
女性の教育機会の向上	14	
地域防災減災活動	17.	
男女共同参画推進条例制定	8	
女性の社会参画推進	23	
学童保育等子育て支援	14	
国際的な女性支援活動	6	
リプロダクティブヘルスライツ	3	
在住外国人支援	4	
上記以外の活動	15	（環境問題、山梨の女性史、健康支援ほか）

※　以下調査項目については自由筆記形式のため、各団体の調査票参照。
自由筆記箇所に関しては、読みやすさ、理解しやすさを担保するために、最低限の加筆修正を加えている部分があります。ご了承ください。

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

1 自治体

団体名　都留市

代表者　市長　堀内富久

活動歴　＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿年目

会員　男性　＿＿＿＿名　女性　＿＿＿＿名　年齢層　＿＿＿＿＿＿歳代

1.
活動分野
主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☒ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☒ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1
活動概要

・通年：きらめき女性塾－市内在住の女性のエンパワーメント向上と塾生が市政について学び研鑽を積むことで女性の政策の意思決定の場への参画を促すことを目的として実施。（平成4年度より実施）
・11月：まちづくり視察研修-県内外の市町村においてまちづくり活動や男女共同参画事業に積極的に取り組んでいる先進地域を訪問し学ぶ。（平成19年度より実施）
・2月：男女共同参画推進フェスティバル－本市における男女共同参画社会づくりを推進するための催し。（平成10年度より）

2-2
活動目的
経緯・背景

2-3
活動成果

きらめき女性塾では、これまでの修了生199名の内、男女共同参画推進委員に9名が登用されるほか、きらめき女性塾をきっかけに市民活動などまちづくりに関心を持ち、地域にて自主的に活動される方も多い。
また、男女共同参画協力員には65名の修了生が登録しており、引き続き男女共同参画事業に協力いただいている。

2-4
活動の工夫

きらめき女性塾は年10回月1回の講座を開講しているが、一貫したテーマを持たせつつ幅広く市政について学んでもらうため、バリエーションに富んだ内容を企画している。

2-5
継続の工夫

きらめき女性塾ではなるべく塾生の都合の良い時間に開講出来るよう事前アンケート等で調整をしている。また小さいお子さんを持つ母親が参加できるよう、託児を設けている。

3a.
自治体との
連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☐ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b
他団体との
連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他　＿＿＿＿＿＿

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　都留市男女共同参画推進委員会

代表者　志村邦治

活動歴　平成12年度より　14 年目

会員　男性　7 名　女性　8 名　年齢層　40-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☒ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☒ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

9月：機関紙「はばたき」の発行（市広報9月号特集記事として掲載）による啓発活動。
9月：男女共同参画協力員（OBOG）との交流会による推進体制の充実。
2月：男女共同参画フェスティバル開催。
通年：各種研修会参加
※その他：各地域や事業所に向けて寸劇によるパフォーマンスを行い、啓発を図る。

2-2 活動目的 経緯・背景

平成8年、「都留市女性プラン」の策定後、平成12年、「都留市男女共同参画基本条例」の施行と同時に委員会設置。男女共同参画社会の形成のため活動を行う。

2-3 活動成果

「子育て応援・男女いきいき宣言企業」登録促進活動により、市内9社が登録。登録企業と連携しながら啓発活動を実施。
「男女共同参画フェスティバル」参加者満足度、H23:93.8%、H24:93.8%、参加者H23:130名、H24:170名。

2-4 活動の工夫

委員構成について男女比の均衡化を図り、幅広い年代や多様な組織から登用するとともに、委員任期は慣例として2年2期の計4年間、2年で約半数が入れ替わる体制をとっていることで、事業の継続性が保たれ会の活性化が図れる。

2-5 継続の工夫

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☐ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　忍野ハーモニープラン推進委員会

代表者　天野昇一

活動歴　平成15年度より　11 年目

会員　男性　6 名　女性　8 名　年齢層　30-60 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☒ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

毎月1回の定例会を開催し、年間を通して啓発活動やイベント企画を行っている。昨年(25年度)は、村民向けの講演会、自治会との意見交換会、親子向けイベントを開催した。

2-2 活動目的 経緯・背景

国や県での取組を受け、忍野村で男女共同参画推進プランが制定されたことにより、推進活動を行ってきた。

2-3 活動成果

男女共同参画推進プランが策定され、推進活動を展開していく中で、平成20年には「男女共同参画推進条例」を制定することが出来た。また村民への認知度も少しずつ向上している。

2-4 活動の工夫

積極的に啓発活動を行い、まずは委員会の存在と「男女共同参画」という言葉を広めることを目標としてきた。まだ内容の周知まではいかないが、「ハーモニープラン」という名称は認知されてきた。

2-5 継続の工夫

委員を継続して勤めるものは多くないが、毎年交代することで活動を知る村民が増えるのも良いことだと思う。活動自体は事務局がいれば進むが、委員の意欲を高めることが必要である。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☒ その他　推進委員の選出
- ☐ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　共に生き活き輝け昭和推進委員会

代表者　依田茂巳

活動歴　平成15年度より　11 年目

会員　男性　7 名　女性　6 名　年齢層　30-60 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☒ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☒ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

【平成25年年度主な事業】
県男女共同参画推進センター出前講座(6月)、男の料理教室(7月)、昭和町ふるさとふれあいまつり出店(10月)、町内小学校出前講座(2月)、県外研修(2月)、フォーラム(3月)

2-2 活動目的 経緯・背景

平成15年度に「昭和町男女共同参画基本計画」を策定、誰もがこの町に住んで良かったと思う事が出来るまちづくり、社会づくりを目指すため推進していくことを目的とする。

2-3 活動成果

第二次計画に揚げた目標値への進捗度合いはまだ判明していないが、計画当初に比べ、男女共同参画の言葉は浸透しつつある。

2-4 活動の工夫

地域及び学校へ直接出向き、「男女共同参画とは」を紙芝居・クイズを用いて出来るだけわかりやすく説明している。

2-5 継続の工夫

推進委員の年齢及び男女比などのバランスを考慮し編成する。
多くの町民に「男女共同参画」という言葉を知ってもらうためイベントを開催し、参画を積極的に促す。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　甲府市男女共同参画推進委員会大国地区女性部愛育会

代表者　山本とし子

活動歴　平成16年度より　10 年目

会員　男性　0 名　女性　97 名　年齢層　30～70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

地域の公民館での講演会。子育て支援、高齢者ふれあいくらぶなど。
年1回の講演会(防災、子育て、男女共同参画に関すること)
毎回40人以上の人が集まり、好評を得ている。

2-2 活動目的 経緯・背景

甲府市男女共同参画推進委員として、地域(自治会推薦)から、会議、イベント、各種講演会に参加することで、地域に持ち帰り理解協力を得るため、「百聞は一見に如かず」を第一に考え活動している。

2-3 活動成果

減災の講演会ではほとんどの参加者が内容を理解され、今更ながら防災減災の重要性を再認識した人が多かった。繰り返し見たり聞いたりすることは有事の際、身を守ることが出来る第一歩の効果がある。

2-4 活動の工夫

参加者を集めることが課題。世の中の時間の流れが速すぎて、不特定多数の人が来てくれることを待っていてもダメだと言う反省もあり、積極的に呼び掛けPRするとともに、各地域に3-4名の指定数を設けている。

2-5 継続の工夫

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☒ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　甲斐市男女共同参画推進委員会

代表者　但田孝子

活動歴　平成16年度より　10 年目

会員　男性　10 名　女性　14 名　年齢層　40-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☒ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動 .....

2-1 活動概要

【学習会】
・地域における男女共同参画実践活動支援事業の進捗状況について
・学習会 「男女共同参画の視点を取り入れた減災研修」講師:NPO法人減災ネットやまなし向山建生氏
・男女共同参画フォーラム(独立行政法人国立女性教育会館)参加
【啓発活動】
・ぴゅあ総合に「甲斐市男女共同参画推進委員会」の活動内容展示(県推進月間)
・県と共催してラザウォークにて県推進月間キャンペーンのため啓発物品の配布と絵本の読み聞かせ実施
・やまなし男と女とのフォーラム会場に「甲斐市男女共同参画推進委員会」の活動内容の展示
・敷島総合文化館に男女共同参画週間(6/23～29)懸垂幕を掲出・啓発活動用のたすき作成
・ぴゅあ総合フェスタ2013展示部「甲斐市男女共同参画推進委員会」の活動内容展示
・デートDV講演会(対象者:敷島中学校3年)演題:「デートDVをなくそう！」講師:山梨県立大学教授　伏見正江氏

2-2 活動目的 経緯・背景

甲斐ヒューマンプラン推進委員会設置要綱(当時)に基づく活動。

2-3 活動成果

毎年継続している事業についてはアンケート結果等を比較し、検証することにより成果を確認している。

2-4 活動の工夫

昨年度からテーマをある程度絞ることにより、集中して学ぶことが出来ている。

2-5 継続の工夫

広すぎる分野に取り組むのではなく、引き続きテーマを絞った内容で男女共同参画に取り組みたい。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☒ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　南部町男女共同参画審議会

代表者　佐野勝三

活動歴　平成16年度より　10 年目

会員　男性　4 名　女性　6 名　年齢層　50-60 歳代

1. 活動分野 主な活動

☒ 男女共同参画全般
☐ ワークライフバランス推進啓発
☐ DV児童虐待防止啓発
☐ 男性の家事育児参画推進
☐ 女性の労働差別撤廃
☐ 女性の教育機会の向上
☐ 地域防災減災活動
☐ 男女共同参画推進条例制定
☐ 女性の社会参画推進
☐ 学童保育等子育て支援
☐ まちづくり地域づくり推進
☐ 国際的な女性支援活動
☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
☐ 在住外国人支援
☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

2か月に1回程度、審議会を開催。啓発活動、ぴゅあ峡南フェスティバルについて討議。

2-2 活動目的 経緯・背景

平成11年度に内閣府により「男女共同参画基本法」が施行・公布されたのち、平成17年度に「南部町男女共同参画条例」を施行し男女共同参画審議会を置き、審議員を委嘱し活動をスタートした。

2-3 活動成果

広報、ホームページ、ヒューマンプラン作成等である程度の住民周知が達成されています。

2-4 活動の工夫

どうすれば活動を見てもられるのか、解りやすさを第一に現在も試行錯誤しています。

2-5 継続の工夫

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある
☐ 団体運営のアドバイスがある
☐ その他
☐ 活動場所の提供がある
☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　甲州市男女共同参画推進委員会

代表者　佐藤多賀子

活動歴　平成18年度より　9 年目

会員　男性　6 名　女性　15 名　年齢層　30-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

☒ 男女共同参画全般
☐ ワークライフバランス推進啓発
☐ DV児童虐待防止啓発
☐ 男性の家事育児参画推進
☐ 女性の労働差別撤廃
☐ 女性の教育機会の向上
☐ 地域防災減災活動
☐ 男女共同参画推進条例制定
☐ 女性の社会参画推進
☐ 学童保育等子育て支援
☐ まちづくり地域づくり推進
☐ 国際的な女性支援活動
☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
☐ 在住外国人支援
☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

「甲州フルーティー夢プラン」に沿った活動を推進するため、毎月1回推進委員会の開催、研修会の開催や参加、推進月間に併せ事業所や職場訪問し、職場における男女共同参画の推進を図るための意見交換や家事の役割分担の偏りに気づいてもらうためのアンケート調査、市内で開催されるイベントでの男女参画に係る意識調査や啓発活動、市広報やCATVを活用した啓発活動などを実施。

2-2 活動目的 経緯・背景

平成17年11月1日、塩山市・勝沼町・大和村が合併。甲州市として新たなプランを策定することとなる。平成19年3月に「甲州フルーティー夢プラン」を策定、総合目標として「甲州市に住む誰もが、性別に係わりなく、互いの人権を尊重しつつ協力し合い、それぞれの個性と能力を十分に発揮することのできる社会の実現」を掲げ、このプランに沿った活動を始めた。

2-3 活動成果

啓発などの取り組み活動等を通じ、少しずつだが男女の別なく取り組んでいこうとする意識変化が生まれてきたと思われる。

2-4 活動の工夫

男女共同参画を理解してもらうことは難しい。地道に繰り返し啓発を続けていくこと。身近なことから啓発をし、まずは「気づいてもらう」ことを重視した。また、委員の自己研鑽も合わせて実施。
現状、問題・課題の把握。

2-5 継続の工夫

現状、問題・課題の把握→解決に向けた推進→検証

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　韮崎市男女共同参画推進委員会

代表者　浅川節子

活動歴　平成18年度より　8 年目

会員　男性　12 名　女性　13 名　年齢層　40-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

毎月第三金曜日に定例会　学習会や推進活動について話し合い。
毎年1回、東京エレクトロン韮崎文化ホールにて男女共同参画フォーラム開催。
毎年1回、市民交流センターにて男性の料理教室開催。各地区にて啓発活動。

2-2 活動目的 経緯・背景

平成18年韮崎市男女共同参画推進条例が施工されたことにより設立。

2-3 活動成果

目に見えるような成果はなかなか得られないが、委員自身の知識向上、意識の変化により、地域活動に男女共同参画の視点が反映されるよう期待する。

2-4 活動の工夫

フォーラム開催時、各地区役員や各種団体に周知し、参加を促している。

2-5 継続の工夫

座学にてただ勉強し、難しい言葉を並べて啓発するのではなく、人が溶け込みやすい言葉や雰囲気を作り、委員みんなが関わり、楽しく「やってみよう」と思える活動をすること。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☒ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☐ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　市川三郷町男女共同参画推進委員会

代表者　市瀬百合子

活動歴　平成18年度より　8 年目

会員　男性　9 名　女性　10 名　年齢層　20-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☒ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☒ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

基盤となるプランの策定(平成19年3月)及び条例の制定(同年9月)また毎年8月には男女共同参画に関する川柳(標語)コンテストを開催。
毎年10月開催の「みさと秋まつり」では町民を対象に意識調査を行い施策の充実を図っている。

2-2 活動目的 経緯・背景

男女が互いに人権を認め、自由な活動の選択ができ、誰もがまちづくりに参画していける社会を目指し、平成18年に委員会を設置後、条例、プランを制定した。
また町民がどの程度男女共同参画について知っているのか、理解しているのかを把握し、さらなる意識啓発を図るため、意識調査や川柳コンテストを行っている。

2-3 活動成果

活動することによって、老若男女が「知っている」「理解している」という認知度がアップした。また多くの情報収集が出来たとともに、今後の課題が確認できた。

2-4 活動の工夫

まつり、イベント等、人の集まる場所での意識調査や管内小中高生から一般を対象に男女共同参画に関する川柳の募集など、町民に興味・関心をもってもらう取組を行っている。

2-5 継続の工夫

イベント、出前講座等による広報活動。また活動のメリット、デメリットを把握することも重要。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　中央市男女共同参画推進委員会

代表者　鷹野和也

活動歴　平成18年度より　8 年目

会員　男性　5 名　女性　12 名　年齢層　50-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

☒ 男女共同参画全般
☐ ワークライフバランス推進啓発
☐ DV児童虐待防止啓発
☐ 男性の家事育児参画推進
☐ 女性の労働差別撤廃
☐ 女性の教育機会の向上
☐ 地域防災減災活動
☐ 男女共同参画推進条例制定
☐ 女性の社会参画推進
☐ 学童保育等子育て支援
☐ まちづくり地域づくり推進
☐ 国際的な女性支援活動
☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
☐ 在住外国人支援
☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

市主催のお祭りに参加し、男女共同参画を啓発。
毎年2月ごろ「男女共同参画フォーラム」を実施。
「男性の料理教室」や「三世代交流会」を実施。

2-2 活動目的 経緯・背景

「拓け中央輝きプラン」の策定と男女共同参画推進のため。

2-3 活動成果

地域や家庭などへの男女共同参画の推進や啓発が出来た。

2-4 活動の工夫

お祭りなどで男女共同参画の啓発を兼ねたアンケートの実施。
「料理教室」や「三世代交流会」参加者に男女共同参画の啓発。
参画川柳を作り、お祭りなどで発表する。

2-5 継続の工夫

継続して活動できる委員の確保。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☒ その他
☐ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☒ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　身延町男女共同参画推進委員会

代表者　無記名

活動歴　平成19年度より　7 年目

会員　男性　6 名　女性　9 名　年齢層　50-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動 .....

2-1 活動概要

全大会：二か月に一度、役場会議室で開催。男女共同参画社会実現に向けた話し合いや、出前講座、フェスティバルの準備。

出前講座：毎年、町内の小学生向けに紙芝居を行っている。

ぴゅあ峡南フェスティバル：実行委員会として参加（数名）

2-2 活動目的 経緯・背景

平成16年の三町合併を機に、男女共同参画社会実現に向けた取組を積極的に行うべく発足。

2-3 活動成果

目に見える成果は出ていないが、小学生向けの出前講座は先生方の反応も良く、子どもたちからも良い感想をいただいている。

2-4 活動の工夫

子ども向けの紙芝居をするときは、男女共同参画についてわかりやすく説明するのと同時に、飽きないような工夫（アニメ形式、台詞に甲州弁）を行った。

2-5 継続の工夫

推進委員を確保することが継続のために一番重要。幅広い年代の方に参加を促す必要がある。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☒ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

2 市町村推進委員会

団体名　富士川町男女共同参画準備委員会

代表者　樋口高子

活動歴　平成22年度より　5 年目

会員　男性　2 名　女性　8 名　年齢層　40-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☒ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 上記以外の活動
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 在住外国人支援

2-1 活動概要

平成22年～24年（23年度は活動なし）、数か月に1回、富士川町役場会議室において、条例、プラン策定のため活動している。

2-2 活動目的 経緯・背景

平成22年の町村合併に伴い、旧町（増穂、鰍沢）の条例プランをすり合わせ、新町の条例・プランを策定するため活動を開始した。

2-3 活動成果

平成26年第二回富士川町議会定例会（平成26年度6月議会）において、富士川町男女共同参画推進条例を策定することが出来た。

2-4 活動の工夫

2-5 継続の工夫

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☒ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☐ 活動場所の提供がある
- ☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

- ☐ 同じ目的を持つ団体
- ☐ 目的が異なる団体
- ☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

3 他行政関係団体

団体名　児童虐待防止セーフティネット甲州

代表者　柳場文彦

活動歴　平成24年度より　2 年目

会員　男性　21 名　女性　15 名　年齢層　30-50 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブ・ヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動 .....

2-1 活動概要

甲州市内にて年に4回児童虐待防止の啓蒙活動。
年に4回、児童虐待防止に関する勉強会。講演会の主催。

2-2 活動目的 経緯・背景

甲州市を中心に、児童虐待を地域住民が防止する活動及び啓蒙活動を開始した。

2-3 活動成果

協力してくれる会員の増加に伴い、講演会や勉強会が年に数回、実施することが出来るようになった。また他団体との協働の会を開催することが出来るようになった。

2-4 活動の工夫

昨年度は毎月定例会を開催し、共に学び、情報を共有する機会を設けた。

2-5 継続の工夫

無理のない計画と各役職者がそれぞれ分担して活動すること。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☒ その他　甲州市役所内に事務局設置
- ☐ 活動場所の提供がある
- ☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

4 NPO NGO

団体名　特定非営利法人減災ネットやまなし

代表者　向山建生

活動歴　平成21年度より　6 年目

会員　男性 ＿＿＿ 名　女性 ＿＿＿ 名　年齢層 30-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

平成21年9月、NPO法人設置。役員12名（分野別に構成）、韮崎市と協働協定締結。広報第一号発行。
平成22年、やまなしBCP/LCP研究普及プロジェクト設置と先進地視察。参加各社の策定BCPに基づいた航海訓練実施。減災に関する啓発活動開始。
平成23年、東日本大震災被災地支援「にらさき一升支援」白米20トンを宮城岩手福島に搬送。義援金1千万を韮崎市を通じて日本赤十字に届ける。韮崎市防災委員として地域防災計画の抜本的見直しに参加。
平成24年、新地域防災計画に基づいた「地域減災リーダー育成」開始。初年度80名認定。韮崎市全地区に「訓練計画プログラム」の提供。「機能する自主防災組織づくり」への地域減災リーダースキルアップ研修開始。第4回減災フォーラム実施。
平成25年、市と住民が協働した特定地域総合防災訓練の実施。

2-2 活動目的 経緯・背景

当該法人理事長は平成7年阪神淡路大震災で震源地となった淡路島旧北淡町に現地入りし、その惨状を目の当たりにした。その後、内閣府が出した「減災の手引き」から「減災力」の必要を強く感じた。平成10年度の地方シンクタンク勤務時期に県内某自治体の地域防災計画策定に関与、住民自身の防災意識の低さにも問題があり、「これではいざという時に被害が大きくなるばかり」「どうしたら被災を小さくできるか」を課題に平成12年度「家庭や地域の減災力」の自主研究に着手。平成16年度から「BCP（事業継続計画）」の研究を加え、平成21年度に「減災力の強い県土づくり」を目指した当NPO法人を設置した。

2-3 活動成果

・東日本大震災の被災地支援
・韮崎市と協働の減災力づくり、まちづくり
・減災力の強い県土づくりに向けた県内各地からの指導要請
・山梨県内の産業界BCP普及啓発の牽引。
・総務省・消防庁主催「第18回日本防災まちづくり大賞」受賞

2-4 活動の工夫

・行政の政策の一端を担える活動の推進
・実績重視
・持続可能な発展型組織の確立

2-5 継続の工夫

・確固とした事業理念
・実績重視
・行政連携

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☒ その他
☐ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある　継続的な事業委託がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☒ その他　支援を求める企業、半公的団体

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　新日本婦人の会山梨県本部

代表者　石原靖子

活動歴　昭和37年度より　51 年目

会員　男性　0 名　女性　1000 名　年齢層　20-90 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☒ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☒ リプロダクティブ・ヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

平和、暮らし、こどものしあわせ

2-1 活動概要

県内9市に支部、3市3町に班があり、支部の中には複数の班があり班を中心に班会、趣味の活動、学習などを行っている。
支部・班から自治体に子どもの医療費助成や就学援助の拡充、少人数学級などの要望を行っている。

2-2 活動目的 経緯・背景

1962年、平和、女性の権利、くらし、子どものしあわせを願い、全国の女性たちが活動を始めた。

2-3 活動成果

女性の賃金の引き上げ、学童保育、子どもの医療費助成拡充、老人医療費助成、少人数学級

2-4 活動の工夫

会員や周りの女性との交流。
様々な要請要望、署名活動。

2-5 継続の工夫

組織の充実。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5県女性団体連絡協議会所属団

団体名　あしたの山梨を創る生活運動協会

代表者　飯窪さかえ

活動歴　昭和38年度より　50年目

会員　男性　　名　女性　64団体　名　年齢層　50-70　歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☒ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☒ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

消費者教育
食と健康
命と暮らしの安全

2-1 活動概要

理事会2回、常任理事会年5回、理事常任理事会議年2回、監事会年1回(以上ぴゅあ総合)
生活学校、生活会議等活動団体支援・育成。県庁各課(男女参画課、子育て支援課、消費生活安全課等)との連携事業。
公益財団法人あしたの日本を創る協会全国大会・関東ブロック協議会などへの参加。
現在、構成団体は64団体。

2-2 活動目的 経緯・背景

昭和31年鳩山内閣の提唱により、新生活運動の中央機関として新生活運動協会が設立され、全国運動が始められる。昭和37年山梨県新生活推進協議会設立。昭和40年、組織名称改組「山梨県新生活運動協会」(会長知事)となる。新しい村づくり運動、国土美化運動、明るい職場づくり運動など。昭和52年、事務局が県民生活課に移管。(会長:鳥居英造氏～依田省吾氏～飯窪さかえ氏)
平成より主要活動事業が省資源・省エネルギー生活地域点検活動となり、現在はまちづくり、環境保全、消費生活の安全確保事業などを行っている。

2-3 活動成果

時代ごとの生活課題への取組、全国組織との連携により、社会的課題解決型の運動を推進するため、山梨県生活学校連絡会、生活会議集団の育成を主として、関係団体、市町村行政との協働により、一歩づつ前進できるような体制が出来ている。
行政からの委託事業、補助事業を受け、各種団体のネットワークを図りながら県民の意識啓発を主眼にしている。

2-4 活動の工夫

歴史と伝統のみでは組織活動の目的達成は不可能な時代の変化を考え、新たな公共理念をもとに、住民ニーズに対応した住民主役のまち・くらしづくりへ向けての工夫をしていかねば、運動の拡充には結びつかないと考えられることから、現状は身近な生活課題の掘り起こし→実践活動へ効果的な研修機会を心がけ、リーダー育成を主要課題としている。

2-5 継続の工夫

1.会員、賛助会員の拡充による組織強化と自己財源の確保。
2.目的を同じくする組織とのネットワーク推進。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☒ その他
☐ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☒ その他　企業、教育活動集団

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　山梨県退職現職女性教職員の会

代表者　古屋敏子

活動歴　昭和44年度より　46 年目

会員　男性　0 名　女性　800 名　年齢層　40-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☒ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☒ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☒ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☒ 国際的な女性支援活動
- ☒ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☒ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

①平和を守る運動、毎年7月に甲府空襲展開催。大型紙芝居、語り伝え活動。
②社会保障の確立。全国と連携して署名、陳情活動。
③子どもの教育を守るための各種活動。

2-2 活動目的 経緯・背景

教え子を再び戦場に送るな！のスローガンのもと、退女教はリーダー的存在となり、平和推進活動を展開している。
誰もが住み良い社会づくりのためには男女平等が必要であるという認識を持ち、男女共同参画推進活動を進める。

2-3 活動成果

成果とまではいかないが、会員が常に意識を持ち、一つの方向を向いて活動している。平和や福祉活動はいつも未来を考えての活動であると思っている。

2-4 活動の工夫

いつもみんなで議論し取り組むことが大切。活動状況は年5回の「便り」で情報を提供している。
県下に8つの支部があり、個々の支部活動の上、県全体の活動を展開している。

2-5 継続の工夫

情報を共有すること。団体構成はピラミッド型であるが、決して上意下達ではなく、民主的運営を心掛けている。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

- ☒ 同じ目的を持つ団体
- ☐ 目的が異なる団体
- ☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　退職女性教職員の会(茜会)

代表者　石井篤子

活動歴　昭和18年から　45 年目

会員　男性　0 名　女性　43 名　年齢層　60-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☒ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☒ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動
  - 東日本大震災被災者支援
  - 平和友情の旅

2-1 活動概要

全国、県、支部、班において活動。
男女差別問題、女性教育力の向上。
女性の地位向上、年金問題、医療介護の問題への取組。
会員同士の親睦、平和教育推進活動。

2-2 活動目的 経緯・背景

退職女性、現職女性教職員の活動として長年取り組んでいる。

2-3 活動成果

現職教員の産前産後の休暇など諸々の休暇制度を実現できた。
ユニセフ・アジア女性の自立支援に貢献。
平和教育の定着。
会員の親睦が図られた。

2-4 活動の工夫

管理職登用について女性の意識が低い、もっと女性自身が意欲的に取り組むべき。

2-5 継続の工夫

会員に80歳を越えた高齢者が多く、会の存続が難しくなっている。退職した教員が入会しない。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　ガールスカウト第10団

代表者　渡辺真由美

活動歴　昭和49年度より　40 年目

会員　男性　0 名　女性　98 名　年齢層　6-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

社会に役立つ女性育て

2-1 活動概要

年長～小学校6年生：毎週土曜日、女性センター、支援センターいきものふれあいの里で活動。
中学高校生：月2回。成人：地域役立ち活動など。不定期。
「人との交わり、自己啓発、自然と共に」の3本柱で移動活動。平和運動への取組み。

2-2 活動目的 経緯・背景

イギリスではじまり、世界145か所がこの活動をしている。社会に役立つ女性育てが主目的で、自立した女性になるための体験学習を年長部門から様々なプログラムで実施。

2-3 活動成果

中学生以上までこの活動を体験した子どもは、自ら考え行動できる女性に育っていると自負している。

2-4 活動の工夫

活動を理解してくれる人の増員。組織の拡充。
活動財源の確保、文部科学省認可の社会教育団体としての信頼確保。

2-5 継続の工夫

活動内容充実。若い女性の育成・

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　山梨県生活学校連絡会

代表者　石井直江

活動歴　昭和49年度より　40 年目

会員　男性　0 名　女性　104 名　年齢層　　歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

消費生活全般、食育、環境

2-1 活動概要

地域に合ったテーマにより活動する県内9校の生活学校単位校の上部組織が生活学校連絡会である。「あしたの日本を創る会」「全国生活学校連絡協議会」「あしたの山梨を創る生活運動協議会」の事業にも参画している。

2-2 活動目的 経緯・背景

生活学校は独自的な方式を以って、テーマに沿って事前学習、対話集会、事後処理運動という手順を重視しながら、課題解決できるよう努力しています。学びを基本にしながら運動体型を持った活動をしています。

2-3 活動成果

石油パニックの頃から過剰包装の追放運動、空き缶空き瓶、新聞紙、牛乳パック等の資源回収運動、自販機の固定化や空き缶等の回収ボックスの設置、廃油再利用、

2-4 活動の工夫

イベント会場での呼びかけやチラシ配布等の情報発信を行っている。
アンケート調査や聞き取り調査まど実施した時は結果発表をするよう心がけている。

2-5 継続の工夫

主体メンバーは高齢化し、メンバー数は減少しています。若い人の加入が不可欠ですが難しい状況にあります。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　山梨県消費生活研究会連絡協議会

代表者　今村繁子

活動歴　昭和50年度より　39 年目

会員　男性　0 名　女性　300 名　年齢層　50-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

消費者被害防止・啓発
食育全般
環境問題

2-1 活動概要

構成団体7地区でそれぞれ活動し、年7-8回県連として理事会を開催。
県連事業としては講演会、食育講習会、県連のつどい、資源リサイクル、環境学習会、消費生活地域講座、寸劇による啓発等。県からの委託金で活動している。

2-2 活動目的 経緯・背景

昭和48年、山梨県により消費生活講座を受講した各地区のリーダーにより結成。
生活全般について調査、啓発、省エネ推進などの活動を続け、今日に至る。

2-3 活動成果

家庭からごみを減らす、マイバッグ運動、消費者被害啓発など各地区の小さな活動が消費者教育、環境活動に役立っている。

2-4 活動の工夫

県委託事業として地域調査〈消費者被害防止、食の安全安心〉を6地区で行っている。
各地区の公民館、自治会において、地元の人との協働で振込詐欺防止の紙芝居、寸劇を行い喜ばれている。

2-5 継続の工夫

他の団体と同様、高齢化などにより、会員減少が一番の悩みである。活動内容もマンネリ化しないよう検討中である。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☒ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　南都留地区　女性団体連絡協議会

代表者　土屋洋子

活動歴　昭和58年度より　31 年目

会員　男性　0 名　女性　23731 名　年齢層　50-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

南都留地区、女性団体連絡協議会が設立されて31年間経過したが、会則の目的に各加入団体の自主性を尊重しながら女性の連帯を図り、女性団体の立場において「男女共同参画社会」の推進を目指すものとあるが、平成17年に都留市合同庁舎内教育事務所より事務局を渡されてからの活動状況のみ記載する。
現在、南都留地区、女性団体連絡協議会は女性6団体から構成される。地域に根ざした男女共同参画推進のために先ずは市町村に出向き、講演会・シンポジューム・フォーラム等、該当市町村の各種女性団体をも巻き込み、それぞれに成果を上げてきましたが鳴沢村を最後に完了したのが4年前。複数の市町村ではその後に初めての女性議員・女性教育委員・審議会委員が複数登用され確実に実りがあったものと思われる。その後、各自治体の管理職に女性の登用、女性議員を増やすために地域を越えての選挙協力等、また郡内選出の女性議員を招いての座談会や東日本大震災を体験してからは防災・減災についての学習会、非常時の調理やキャンドル製作など、ぴゅあ富士の出前講座を利用して開催した。

2-2 活動目的 経緯・背景

最初の頃は会員同士の自分磨きのための勉強会を行っていたが、他者への広がりも啓発活動にもならないことに気づき、各市町村を廻り、住民に対して草の根から改革が必要ではないかと考え、実行に到った。自治体においても首長の考え方に温度差を感じており、なお一層の努力が必要と考える。

2-3 活動成果

各市町村を廻り啓発活動を続けていく中で、女性だけでなく年配の男性たちからのエールも感じられ心強く思いました。その中では男女共同参画と言う馴染みの薄い言葉や掛け声は聞かれるものの、内容への理解は出来なかったようです。説明していくうちに理解も深まり協力的な態度に、諦めず努力した甲斐があったと嬉しく思う。

2-4 活動の工夫

地域の身近なイベント会場で男女共同参画推進のためのチラシ・啓発グッズ等の配布を行い、職場での女性の地位向上のための情報発信や、政策決定の場への女性議員の必要性を説き、啓発に努めることが必要である。

2-5 継続の工夫

今後何年先か不明であるが、確実にくるであろう自然災害に対しても、日頃の訓練と備えは怠りなく、自助・共助・公助の精神は忘れずに。そして継続するために女性議員の後継者づくりは大切なので、会員全体でしっかりと心に留めて人材確保に努めたい。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　国際ソロプチミスト山梨・芙蓉

代表者　天野千鶴子

活動歴　昭和60年度より　29 年目

会員　男性　0 名　女性　30 名　年齢層　　歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☒ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☒ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☒ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☒ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

DV防止活動。各市町村養護施設援助。東日本大震災被災者支援。大島被災者支援。

2-2 活動目的 経緯・背景

女性、女児の生活向上の為。

2-3 活動成果

各地区、養護学校卒業生の支援の為、生活用品提供、学費援助など。

2-4 活動の工夫

現状を見ながら会員同士で意見交換。

2-5 継続の工夫

資金獲得。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☒ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　山梨県愛育連合会

代表者　鈴木孝子

活動歴　平成5年度より　21 年目

会員　男性　5 名　女性　146811 名　年齢層　30～70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブ・ヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

愛育の基本活動、声かけ・見守り・相談により地域の交流を広げ、母と子の健康づくりを進めるため、S40、3月設立。地域に住むすべてのひとを対象に地域住民である愛育班員が、地域の健康課題に取り組む自主的組織的活動。

2-2 活動目的 経緯・背景

1、声かけ・見守り・相談を行うことにより、健康な子どもを産み育てられるようサポートする。
2、お腹に赤ちゃんが宿ってから乳幼児期に家庭・地域でどう子どもたちを育てるか。
虐待・いじめ・自殺等、事件や事故をなくすために取り組む活動。地域の隣近所のおばちゃんの活動です。

2-3 活動成果

地域性を生かし、それぞれの地域に合った活動に取り組んでいる。過日の大雪害時、この組織力か、町の保険市(行政)からの指示により愛育会が行動し、高齢者、妊婦、幼児のいる家庭への声かけ、物質の支援等行われ組織活動に繋がった事例が案内で聞かれた。

2-4 活動の工夫

会員146816人班員8883人。
毎年、県下愛育班員、教育関係者、行政、一般の方を集い、愛育大会(県と共催)を行い、心身の健康、地域の健康を考える講演会、シンポジウムを行い活動の波及・啓発を行っている。

2-5 継続の工夫

実践活動をする班員の子育てが終わり、社会的にも実質的にボランティア活動のできる高令の方が多いため、若い年代の方にも班員として入会活動をして欲しい。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☒ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　山梨県女性団体連絡協議会

代表者　牛奥久代

活動歴　平成8年度より　18 年目

会員　男性　0 名　女性　37団体 名　年齢層　50-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

☒ 男女共同参画全般
☒ ワークライフバランス推進啓発
☒ DV児童虐待防止啓発
☒ 男性の家事育児参画推進
☒ 女性の労働差別撤廃
☒ 女性の教育機会の向上
☒ 地域防災減災活動
☒ 男女共同参画推進条例制定
☒ 女性の社会参画推進
☒ 学童保育等子育て支援
☒ まちづくり地域づくり推進
☒ 国際的な女性支援活動
☒ リプロダクティブヘルスライツ推進
☒ 在住外国人支援
☒ 上記以外の活動

2-1 活動概要

男女共同参画、消費生活などを活動目的とする女性団体37団体が所属している。各団体が教育・国際交流、健康・福祉、地域活動などの部会に分かれ活動している。
全体研究会、女性議員と語る会、機能別研修会、機能別部会(講演会)、事業に伴う執行部会、理事会等を主にぴゅあ総合にて開催。

2-2 活動目的 経緯・背景

誰もが共に輝き、活き活きと暮らすことが出来る社会づくり。
男女共同参画社会実現のため多くの分野で女性の力が発揮できるよう、共に学び実践に移す。

2-3 活動成果

学ぶことにより、当たり前と思っていたことの中にある矛盾に気づき、その解決に向けて会員が真剣に考えるようになった。人間関係が作られ強い連帯意識が築かれた。

2-4 活動の工夫

各人の個性を大事にしながら現在から未来へと考えを進めるよう考えている。
価値観の多様性は無視できないが、あまり異なった考え方はしっかり聞き取り助言する。
足元の社会の課題に着目する。

2-5 継続の工夫

あまり急がずしっかりと理解し、会員同士互いに切磋琢磨しながら前に進む。全会員の考えを大切にする。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☒ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☐ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　21世紀やまなし女性会議

代表者　飯窪さかえ

活動歴　平成13年度より　13 年目

会員　男性　0 名　女性　30 名　年齢層　50-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☒ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☒ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

役員会は年5回、ぴゅあ総合で開催。
学習会、自主事業として政治学習（憲法問題、国政、県政、市町村行政等の課題について、会員との情報交換、意識交流の機会を企画し実施している。他の関係機関関係団体との連携事業への参加。

2-2 活動目的 経緯・背景

昭和60年度「山梨県婦人のつばさ事業」、平成4年度「やまなし女性海外セミナー」、平成7年度「世界女性会議」などに参加してきた仲間が活動推進のため設立した「やまなしNGOの会」を経て、平成13年、女性の政治参画を目指して21世紀やまなし女性会議をスタートした。

2-3 活動成果

女性の政治参画に対する意識が高められるとともに、その必要性についても年次毎に強く求められるようになり、平成20年には、会員中、県議2名、市議6名、町議1名、村議4名を輩出した。他方、議会選挙の様々な課題に直面し、現状では、県議1名、市議3名、村議1名の状況である。

2-4 活動の工夫

学習意欲の高揚を図るため時代の変動により生ずる社会的課題（政治の在り方、選挙制度、自治問題）についての研修機会を作り、他団体や一般への啓蒙活動の呼びかけなどを、時には実行委員会形式により実施してきたが効果的な結果は得られていない。

2-5 継続の工夫

堅苦しい研修会だけでなく、毎年、「望年の集い」等を開催し、会員相互の親睦を図っている。
研修会には常時、湯茶のセルフサービスを行っている。
広報活動が不足しているので、何をするのか、何をしているのか等の情報発信に力を入れていこうと考えている。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

5 県女性団体連絡協議会所属団

団体名　甲斐市女性団体連絡会

代表者　田中陽子

活動歴　平成16年度より　10 年目

会員　男性　0 名　女性　　名　　年齢層　50- 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブ・ヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

県外研修や学習会において男女共同参画の視点を持った内容を企画し、会員の理解を深め活動につなげる。
年度末発行の情報誌「ほほえみ」に活動内容を掲載し全戸配布する。
会から市男女共同参画推進委員会などに参加している。

2-2 活動目的 経緯・背景

男女共同参画社会の実現をめざし、女性の資質向上を図り、明るく住みよい豊かな地域づくりを推進していく。

2-3 活動成果

記入なし

2-4 活動の工夫

情報誌の発行の際は活動報告だけでなく、その時に話題になっていること、興味を引くものを取り上げる。
学習会や研修内容も単に事業の一つとして行うのではなく、学びたい問題等を常にテーマとしている。

2-5 継続の工夫

情報誌の発行(全戸配布)による啓発。
学習会を他団体と協議で行う。
市男女共同参画推進委員会主催のフォーラム後援。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☐ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　つみかごの会

代表者　富永元恵

活動歴　平成6年度より　21 年目

会員　男性　0 名　女性　22 名　年齢層　60-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

環境問題にかかわる諸活動（アクリル毛糸で製作したたわし等）

2-1 活動概要

「つ」都留市を、「み」みんなで、「か」考えて、「ご」行動する会との思いを込めて、名付けた。主婦、退職女教師などが集まり、女性の目線で都留市の事を考え活動始めて21年経過した。毎月第二火曜日に定例会を行っている。

2-2 活動目的 経緯・背景

ごみの減量のための活動をきっかけに資源となる紙、段ボール、アルミ缶、ペットボトルなどの分別の徹底。マイバッグ運動からスタートした。
この活動はぴゅあ富士フェスティバル、公民館まつりなどで寸劇を通して市民に呼び掛け、共に考える機会としている。

2-3 活動成果

地味な活動であったが、次第に理解が得られるようになった。いろいろな問題（環境、福祉、介護、高齢化、防災）を行政任せでなく、自分達も考え、積極的に行動できるようになった。今後も学習を重ね、諸問題の解決を探りたい。

2-4 活動の工夫

今、私たちがやるべき事は何か、を見つけ出し、学習し情報をキャッチして、自己満足に終わらぬよう努力している。皆と話し合い、決まったことは行動に移すことをモットーとしている。

2-5 継続の工夫

運動開始当初、60歳代だった中心的な会員も高齢化した。若い新入会員が皆無の状態で会の存続が危ぶまれている。出来ることを精一杯し、老齢でもまだ大丈夫と手本を示したい。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☒ その他　ボランティア協議会、女連協に所属

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　都留市読み聞かせボランティア こぶたの会

代表者　小松かおり

活動歴　平成12年度より　14 年目

会員　男性　5 名　女性　12 名　年齢層　30-50 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

主に都留市内の小学校・幼稚園・保育園などで、日中、絵本や紙芝居の読み聞かせ、手遊び、クイズなどを行っている。その他、ブックスタート事業(毎月の7ヶ月検診時)、図書館(毎月一回)。
韮崎、甲斐、甲州、山梨市などの福祉施設を訪問して、歌や絵本読み聞かせ、パネルシアター、エプロンシアターを行っている。

2-2 活動目的 経緯・背景

都留市社会福祉協議会が主催する読み聞かせ講座に参加し、都留市内でボランティアグループを立ち上げた。

2-3 活動成果

子どもたちに絵本を好きになってもらったり、興味を持ってもらったり、親子で絵本を読む機会や聞く機会を与え、豊かな時間を共有している。

2-4 活動の工夫

プログラムづくりで読み聞かせの間にクイズや手遊びを入れたり、大型カーペットや紙芝居の作成、会の歌を作りオープニングで歌ったり踊ったりしている。
また読み聞かせ講習会等にも参加し、スキルの向上を図っている。

2-5 継続の工夫

無理をしない、楽しくやる、が基本。
ボランティアを常に確保、補充。
時によりゲスト(イラストレーター、尺八の先生など)を招き、コラボレーションする。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　グループWingやまなし

代表者　田中陽子

活動歴　平成12年度より　14 年目

会員　男性　0 名　女性　5 名　年齢層　50-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

☒ 男女共同参画全般
☐ ワークライフバランス推進啓発
☐ DV児童虐待防止啓発
☐ 男性の家事育児参画推進
☐ 女性の労働差別撤廃
☐ 女性の教育機会の向上
☐ 地域防災減災活動
☐ 男女共同参画推進条例制定
☐ 女性の社会参画推進
☐ 学童保育等子育て支援
☐ まちづくり地域づくり推進
☐ 国際的な女性支援活動
☐ リプロダクティブ・ヘルスライツ推進
☐ 在住外国人支援
☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

山梨県立大学「女性学入門」「ジェンダー論」の授業のゲスト講師を平成12年から年1回務めている。
ぴゅあ総合フェスタにも参加。

2-2 活動目的 経緯・背景

山梨県立短期大学(現、山梨県立大学)で実施された「男女共同参画アドバイザー養成講座」の受講生でグループを結成し、地域の人たちに男女共同参画についてわかりやすく伝えるために大型紙芝居を作り活動している。

2-3 活動成果

小学生～大学生までが依然として性別に縛られた生活をしていることを実感すると同時に、活動により性別的役割分担の問題について気づいてもらうことが出来た。

2-4 活動の工夫

時代に合わせた内容を常に取り入れ、新しくなった制度や男女共同参画に関する方針等を紙芝居の内容に加え、ワークショップの中で理解を促している。

2-5 継続の工夫

新しい情報やデータ収集のためのアンテナを常に持つように心がけ、学習会等に積極的に参加する。
活動場所の開拓。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☐ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　やまなし女と男のネットワーク

代表者　清水絹代

活動歴　平成14年度より　12 年目

会員　男性　2 名　女性　33 名　年齢層　50-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動 ……

2-1 活動概要

① 年一度、都留文科大学野畑真理子教授の「ジェンダー研究入門」で「デートDV防止講座」担当。
② 年一度、県立大学池田政子名誉教授担当の県勧学院講座。
③ 各グループごとの活動
④ ネット塾、ネット交流会

2-2 活動目的 経緯・背景

文部科学省補助事業、県社会教育課主催の「男女共同参画アドバイザー養成講座」受講者が県内に広く男女共同参画を推進するための活動を目的とした。
教育機関への推進、自治体推進委員会との交流により、推進活動につなげる。

2-3 活動成果

・県内自治体推進委員との交流会でお互いの推進状況を知り、情報の共有と相互の自治体の活動に活かすことが出来た。
・国立女性教育センター(NWEC)での活動発表(2回)

2-4 活動の工夫

講座開催のための研修を実施し、会員同士の学びあい。
講座実施後の振り返りを実施。

2-5 継続の工夫

個人の意識、男女共同参画社会実現に向けての向上心の継続、そのための情報共有。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☐ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　劇団さくらっ子

代表者　平井ゆみ

活動歴　平成16年度より　10 年目

会員　男性　0 名　女性　11 名　年齢層　50-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

社会問題、環境問題をテーマにした活動

2-1 活動概要

最近は自治体など小規模な会場で地域防災やオレオレ詐欺、いじめ防止などをテーマにした公演を行っている。(富士河口湖町では「女が会社を変える時」、環境フェアでは紙芝居を行った)

2-2 活動目的 経緯・背景

平成16年に甲府市女性市民会議で男女共同参画について学んだメンバーが、男女共同参画を寸劇を通してわかりやすく推進することを目的として活動を始めた。

2-3 活動成果

公演を見ていただいた皆さんが、何かを感じ、考え、地域で実行していただいていることと思います。
「地域防災」の公演の後には、これまでより多く、自治会で発言をするようになったなどの話をうかがいました。
「オレオレ詐欺」の公演を見た方は、絶対に騙されないよう注意するようになったそうです。

2-4 活動の工夫

その時代の社会問題をテーマに、シナリオづくりからオリジナル作品を作っている。またそのシナリオを基に毎週稽古を行っている。

2-5 継続の工夫

会員のコミュニケーションはもちろんだが、公演の場を得るための広報活動も積極的に行っている。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　ハッピーキッズ

代表者　福井雪恵

活動歴　平成16年度より　10 年目

会員　男性　7 名　女性　9 名　年齢層　　歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

子育て世代の交流

2-1 活動概要

毎週水曜日午前10時から正午まで、コモア内の集会所や公園などで手遊び、読み聞かせ、工作、食育、リトミックなど子どもと保護者のための活動を行っている。

2-2 活動目的 経緯・背景

子育てに関する情報交換、就園前の子どもたちの経験の場づくりを保護者同士で協力して行うことを目的とする。地域の児童館などの機能を補う活動。

2-3 活動成果

各地から引っ越してきた人たちが子育てで孤立せず、のびのび楽しく子育てを楽しめるようにと、就園前の子どものつながりを作っていけるようになった。

2-4 活動の工夫

ひとりの負担を少なくするため交代で当番を決めて、それぞれが独自に工夫した活動を行う。

2-5 継続の工夫

月一回、活動以外で話し合いを設けて反省や次回への確認、意見を出し合えるようにする。
補助スタッフを募集していく。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　こま未来塾

代表者　小松繁光

活動歴　平成18年度より　9 年目

会員　男性　11 名　女性　12 名　年齢層　50-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

・定期役員会:南アルプス市八田情報館にて年間8回程度開催。
・学習会:会員の研修を主体に一般にも開放し、年1回開催。
・調査事業:各市町村ごと行政等を巻き込みながらフォーラムで取り上げる課題に関する資料及びデータを収集する。テーマは毎年異なる。
・中巨摩地区男と女のフォーラム開催。
・その他、男女共同参画推進関係機関のイベントや行事に参加。

2-2 活動目的 経緯・背景

こま未来塾は平成18年度を持って終了した県委託事業「地域発男と女とのフォーラム」の旧中巨摩地区に属する三市一町の有志によって設立され、男女共同参画社会の実現を目標に地域の自治会活動や運営、住みよいまつづくり実現のための情報交換と実践活動の場として活動を開始。

2-3 活動成果

学習会やフォーラムを開催するほか、各市町の男女共同参画推進フォーラム等でも地域の実践的取組紹介などを行う事で、活躍の場が拡大するとともに、身近な取組情報が各推進委員に提供された。三市一町共通のテーマを取り上げることにより、行政担当部署やその他事業関係者にも男女共同参画を啓発することが出来た。フォーラムに出演したシンポジストやパネラーはこれを機会に学習を深め地域リーダーの役割を担うとともに自己の仕事等でも男女共同参画を意識し取り組んでいる。役員会では議論を交わし、方向性を決定していることは視野拡大、モチベーションアップにつながっている。

2-4 活動の工夫

東日本大震災後、県内でもいち早く防災と男女共同参画をテーマに活動を実践、その後、各市町村等がテーマとすることに繋がった。
役員には市町村委員会の委員もおり、課題抽出や情報提供の場面でこま未来塾を通じて一体的な取り組みに繋がった。
今後は中巨摩地区の県推進委員にも加わっていただき活動を充実させていきたい。

2-5 継続の工夫

継続のためには若い世代の獲得が不可欠であるが、「男女共同参画は市でやっているから参加する必要はない」と、苦戦状態が続いている。以前行政が加わって実施していた頃はこのような言葉は聞かれなかった。男女共同参画も一定の浸透を見せる中、個人の活動参加への多様化や任意団体としての取組の弱さを実感している。今後は目的を同じくする団体と交流を深め、相互に補完しながら事業を拡大していきたい。また中巨摩地区の県推進委員やぴゅあ総合の支援をいただきたい。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☐ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☐ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　やまなし地域女性史聞き書きプロジェクト

代表者　池田政子

活動歴　平成17年度より　9 年目

会員　男性　1 名　女性　17 名　年齢層　40-70 歳代

1. 活動分野 主な活動

☐ 男女共同参画全般
☐ ワークライフバランス推進啓発
☐ DV児童虐待防止啓発
☐ 男性の家事育児参画推進
☐ 女性の労働差別撤廃
☐ 女性の教育機会の向上
☐ 地域防災減災活動
☐ 男女共同参画推進条例制定
☐ 女性の社会参画推進
☐ 学童保育等子育て支援
☐ まちづくり地域づくり推進
☐ 国際的な女性支援活動
☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
☐ 在住外国人支援
☒ 上記以外の活動

山梨の女性たちの歴史を掘り起こしと成果の発信。

2-1 活動概要

月1回以上の割合で県立大学にて研修会等の会合を持っている。地域の先輩女性たちに聞き取りをし、聞き書きをしてまとめること、ぴゅあ総合と連携して「やまなしの女性史を学ぶ」講座の企画・実施することが主な活動である。

2-2 活動目的 経緯・背景

県立総合婦人会館(現ぴゅあ総合)が1989年、91年、95年に刊行した「山梨女性史ノート」(明治編・大正編・昭和編)三編の成果を活かし、山梨の女性史について研究するため、「男女共同参画アドバイザー養成講座」(県教委・県立女子短大・ぴゅあ総合による研修講座)の修了生と県立大教員がメンバーとなり、県立大学地域研究交流センターの研究プロジェクトとして発足。

2-3 活動成果

2005年度より、毎年研究内容及び「やまなしの女性史を学ぶ」講座の内容等を含む「報告書」を県立大地域研究交流センターより刊行。2014年には同第二集を刊行した。

2-4 活動の工夫

メンバーは様々な地域活動を行っているので過重に負担にならないよう、出来る人が出来ることをするというスタンスで続けてきた。

2-5 継続の工夫

・定期的に気軽に利用できる活動の「場」(物理的、心理的に)は必須。
・活動を中心的に担える複数の人材。
・短期的、中期的な活動目標や成果の発表と評価。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　女性の人権サポート くろーばー

代表者　森川茂子

活動歴　平成19年より　7 年目

会員　男性　10 名　女性　98 名　年齢層　30-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☒ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

・電話相談　毎週水曜日12:00～19:00　フリーダイヤル
・シェルターの提供・運営
・ふれあい事業　年4回
・同行支援
・啓発事業
・講演会、フォーラム等

2-2 活動目的 経緯・背景

暴力被害を受けた女性や子どもが安心して生活できる心安らぐ場(シェルター)を提供する。自立に向けて心身の回復や新しい生活の準備が出来るように支援活動を行う。

2-3 活動成果

心安らぐ場(シェルター)で心身を休め新たな生活へ出発された方。また相談が自立へのステップに歩みだしてからも民間としてお手伝いされる方。

2-4 活動の工夫

・電話相談をフリーダイヤルにし、利用者の負担を軽減した。
・くろーばーの活動を伝えるため年2回の会報を発行。リーフレット、名刺版PRカード発行。
・イベント(ぴゅあ総合フェスタ、甲府カトリック教会のバザー)参加。

2-5 継続の工夫

・経済的支援
・活動する人を拡げる努力
・事務所(活動拠点)の取得

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☒ その他　公的機関と連携して活動
- ☐ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　こぐまクラブ

代表者　赤田早苗

活動歴　平成20年度より　6 年目

会員　男性　0 名　女性　15 名　年齢層　20-40 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

子育てサークル

2-1 活動概要

毎週水曜日、いきいきプラザやぴゅあ富士において、リズム遊びや手遊び、読み聞かせ、季節の工作などを行っています。また、毎月第三金曜日、図書館において0-3歳児対象のおはなし会を開催しています。

2-2 活動目的 経緯・背景

都留市内に居住するママ達でつくりました。市内にママたちのサークルが無く、立ち上げるきっかけになりました。会員みんなでイベントを計画したり、子育ての悩みを相談したり、ママ友づくりをしたりの目的で始めました。

2-3 活動成果

ママ友が出来たり、子育ての悩みを気軽に相談出来たりと、交流の場になっていると思います。
イベントは親子のリフレッシュの機会にもなっています。

2-4 活動の工夫

会員に声をかけ、みんなで計画や準備をして創り上げるようにしています。気軽に参加してもらえるよう、明るい雰囲気づくりをしています。

2-5 継続の工夫

外部から様々な講師を呼んで、子育てが楽しくなるような行事をしています。(ベビーマッサージやアロマ、フラワーアレンジメント、スクラップブックづくりなど)

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☒ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　5ひきのこぶた

代表者　近藤あつ子

活動歴　平成20年度より　6 年目

会員　男性　0 名　女性　5 名　年齢層　60 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

子どもたちを対象に推進活動をしている。

2-1 活動概要

年2-3回、ぴゅあ総合出前講座として甲斐市内の児童館、保育園、小学校等でパネルシアターを使い啓発を行っている。

2-2 活動目的 経緯・背景

2007年12月、男女共同参画推進センターで行われた、学習支援者養成講座の受講をきっかけに甲斐市内の児童館で活動を始める。

2-3 活動成果

児童館での活動をはじめたことにより、保育園、小学校で活動が行えるようになった。

2-4 活動の工夫

わかりやすく学べるように子どもたちや保護者の意見を取り入れ、パネルシアターの見直しを随時行っている。

2-5 継続の工夫

メンバーの学習のため、講演会、講座に参加し、新しい情報の収集に努めている。
活動場所の開拓。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☐ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

- ☐ 同じ目的を持つ団体
- ☐ 目的が異なる団体
- ☒ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　ブラウンライス・La Flor Bailar(ラ・フロル・バイラ)

代表者　米澤はるか

活動歴　平成21年度より　6 年目

会員　男性　0 名　女性　20 名　年齢層　5-40 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

ブラウンライス:不定期、子育て中の母親、女性に向けたイベントやリフレッシュ(ヨガ等)の開催。
La Flor Bailar(ラ・フロル・バイラ):月2-3回、ぴゅあ富士にて5歳～小学生向けのダンスレッスン

2-2 活動目的 経緯・背景

ブラウンライス:自身の子育て等を通じて、母親へのサポートや楽しく勉強できる場があったらと始めた。
La Flor Bailar(ラ・フロル・バイラ):ダンスは子どもたちの創造性や音を感じる心を養ってほしいと始めた。

2-3 活動成果

たくさんの母親に参加いただき、日常に新しいエッセンスが入ったと喜んでいただき、母親同士の交流から新たな活動が生まれたこと。

2-4 活動の工夫

小さい子がいるためお昼ご飯をつくって提供することによって、昼間でゆっくり楽しんで来てもらえる事。
また持ち寄りの日を設定して参加してもらうと、それぞれが主体性をもって参加する。

2-5 継続の工夫

参加者から実費以外に積立をする、または助成金制度があると活動も長く続けていくことが出来ると思う。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☒ その他　以前活動場所の提供があったが現在は難
- ☐ 活動場所の提供がある
- ☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度 「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　山梨セラピスト協会

代表者　杉本かおる

活動歴　平成21年度　5 年目

会員　男性　0 名　女性　20 名　年齢層　20-60 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☒ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

健康支援

2-1 活動概要

年6回の定期交流会。スキルアップ勉強会。イベントの実施。
ぴゅあ富士での公開講座。幼稚園保育園、小中学校での研修。

2-2 活動目的 経緯・背景

女性が子育てをしながら働くスタイルとして、セラピストという選択もあるということを伝えたかった。一人で仕事をする孤独や悩みの共有、スキルアップ、助け合い、仲間づくりをして、セラピストの地位向上を図りたかった。また女性の体調管理にセラピーを取り入れる大切さをPRしながら社会貢献をしたかった。

2-3 活動成果

一人で始めた仕事も仲間がいることで協力しあえたり、交流が生まれ新しいお客様との出会いにつながったり、講師依頼を受けたりと、活動の幅が広がった。

2-4 活動の工夫

インターネットの活用、フェイスブック、LINEなどの告知、一人一人が数名づつ集客することでイベント自体の動員が増える。予算がないため、チラシや告知も手づくりで手分けして行っていること。

2-5 継続の工夫

定期的な仲間との交流。
自らがアクションを起こすこと。そこから次のリーダーになる人を育てること。
担当者と会い話をすること。やり続ける情熱を持ち続けること。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　家庭教育支援チーム ラ・ペジブル

代表者　藤森晴江

活動歴　平成22年度より　4 年目

会員　男性　0 名　女性　4 名　年齢層　40-60 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

年間不定期、ぴゅあ富士、ぴゅあ峡南、富士河口湖町子ども未来創造館などで、子育て中の親を中心に学びあいながら悩みを話したりつながりを深めている。

2-2 活動目的 経緯・背景

ひとりで悩むお母さんのためのネットワーク作り。

2-3 活動成果

会を持つごとに、参加されたお母さんと主催する私たちともに気持ちが前向きになり、意欲的になる。

2-4 活動の工夫

すぐに成果はあがりませんでしたが、行政（ぴゅあ富士、ぴゅあ峡南、富士東部教育事務所、県社会教育課）の応援があったので継続活動が出来ている。参加した全員が自分の思いを話し、参加者同士が互いに受けとめ合うことにより、次回も参加しようという気持ちになる。

2-5 継続の工夫

同上。行政の応援が大変ありがたい。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☐ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　畑CAFE

代表者　奈良知子

活動歴　平成24年度より　2 年目

会員　男性　0 名　女性　3 名　年齢層　40-50 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☒ 男女共同参画全般
- ☒ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☒ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☒ 女性の教育機会の向上
- ☒ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☒ 女性の社会参画推進
- ☒ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☐ 上記以外の活動

2-1 活動概要

平成24年7月、上野原市八米、西原地区において循環型農業、郷土料理について学ぶ。
同9月、上野原市上野原地区において、ごみの減量、堆肥作り、昔のおやつについて学ぶ。

2-2 活動目的 経緯・背景

上野原市の男女共同参画推進委員三人で基礎講座に参加し、地域のまちづくりの取組を学習した時より活動を開始。

2-3 活動成果

地域の活性化。
食文化の継承。
自給自足の循環型社会の形成について学ぶこと。

2-4 活動の工夫

今までの畑作業のイメージ(一人ではさみしい、つらい)を、おしゃれで楽しく、若い人も参加したくなるように、安全安心な材料を用いる、チラシ等を作成して地域に声かけに行くなどの工夫を行った。

2-5 継続の工夫

地域の気候風土にあったもので、健康向上につながる内容を提案する。コミュニティでの活動機会を増やし、災害時にも対応できる工夫を行った。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☒ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☒ 目的が異なる団体　☐ その他　自然農法研究会、子育てサークル

調査:平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　都留水みず探検隊

代表者　賀川一枝

活動歴　平成25年度より　2 年目

会員　男性　3 名　女性　3 名　年齢層　20-60 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☒ まちづくり地域づくり推進
- ☐ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☐ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

環境、水への意識啓発

2-1 活動概要

年2回（6月・12月）の水質調査と、関連した勉強会、ワークショップ、報告会など。

2-2 活動目的 経緯・背景

身近な水環境の全国一斉調査の活動を知って、参加することを決め、関連する活動を併せて行うことで、健全な水循環の大切さを広く普及したいと思った。

2-3 活動成果

上下流支流（横浜国立大学学生と都留市民）、富士山湧水を活用した水掛け菜栽培をバックアップする。「水掛け菜サミット」（2015年1月開催予定）の開催の採択など。

2-4 活動の工夫

告知、人集めの難しさ、当たり前に存在する水の大切さを知ってもらうためのモチベーションを如何にして上げるか、現在も模索中。

2-5 継続の工夫

コアメンバーの熱意と継続する意志、及び楽しく続けること。批判ではなく、ポジティブなアプローチ。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

☒ 助成金など運営費の援助がある　☐ 団体運営のアドバイスがある　☐ その他
☒ 活動場所の提供がある　☐ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施

平成26年度「地域の男女共同参画推進活動団体調査」

6 民間団体

団体名　国際ボランティアSAMEインターナショナル

代表者　有泉俊子

活動歴　＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿年目

会員　男性　30 名　女性　70 名　年齢層　10-80 歳代

1. 活動分野 主な活動

- ☐ 男女共同参画全般
- ☐ ワークライフバランス推進啓発
- ☐ DV児童虐待防止啓発
- ☐ 男性の家事育児参画推進
- ☐ 女性の労働差別撤廃
- ☐ 女性の教育機会の向上
- ☐ 地域防災減災活動
- ☐ 男女共同参画推進条例制定
- ☐ 女性の社会参画推進
- ☐ 学童保育等子育て支援
- ☐ まちづくり地域づくり推進
- ☒ 国際的な女性支援活動
- ☐ リプロダクティブヘルスライツ推進
- ☒ 在住外国人支援
- ☒ 上記以外の活動

環境教育活動

2-1 活動概要

海外ボランティア、環境活動をイタリア、カナダ、アメリカ、インド、ネパール、マレーシア、タイなどで行う。

2-2 活動目的 経緯・背景

パリ・ユネスコ本部からの依頼を受け活動開始。

2-3 活動成果

ネパールに識字校12校、病院1棟、公民館2棟を建築し、併せて水道施設、コンピュータなどを寄付。また定期的に援助物資を送っている。

2-4 活動の工夫

すべてボランティア活動で国際貢献することの大切な事を伝えるための講演活動。

2-5 継続の工夫

講演を通して意識を高めていくこと。

3a. 自治体との連携

a. 自治体との連携がある。

- ☐ 助成金など運営費の援助がある
- ☐ 団体運営のアドバイスがある
- ☐ その他
- ☒ 活動場所の提供がある
- ☒ 活動機会の提供がある

3b 他団体との連携

b. 他団体との連携がある。

☒ 同じ目的を持つ団体　☐ 目的が異なる団体　☐ その他 ＿＿＿＿＿＿

調査：平成26年5月－8月　山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合　実施